

ハイブリッド環境下の大学図書館における学術情報サービスの構築

渡邊, 由紀子
九州大学附属図書館

<https://doi.org/10.15017/17922>

出版情報：九州大学, 2009, 博士（学術）, 論文博士
バージョン：
権利関係：



概 要

大学図書館を取り巻く環境が、電子ジャーナルに代表される学術情報の電子媒体化、利用者ニーズの高度化・多様化、国立大学法人化などにより、大きく変化している。一方、伝統的な紙媒体資料の保存と提供は継続しており、現在の大学図書館は、多種多様な情報が混在するハイブリッド環境下に置かれている。図書館がこれらの変化に対応し、大学の学習・教育・研究を支える学術情報基盤として機能するためには、新しい形で学術情報サービスを構築していく必要がある。本論文では、利用者と情報を有機的につなぐ図書館の機能や活動を、人、組織、システム、場の視点からとらえ、システム面から増大する電子リソースの利用環境整備、組織面から電子ジャーナル導入による図書館業務の変化への対応、人の面から図書館員の専門性育成という 3 つの課題について、大規模国立大学である九州大学附属図書館の例を基に、大学図書館における実証的研究を行った。

システムの面では、電子ジャーナル管理システム、OpenURL リンクリゾルバなどの新しい技術を活用し、既存システムの OPAC 等と相互連携させる電子的サービスが電子リソースの利用環境向上に有効であると考え、九州大学附属図書館で実現し、利用者に提供した。その結果、図書館側の管理業務を省力化し電子ジャーナルの利用を促進することができた。組織の面では、物流管理を前提とした従来型の組織体制では、電子ジャーナル導入による図書館業務の変化に対応できなくなっているため、電子リソースに関連する管理業務とサービス業務を一体化する組織改革が必要であると考え、九州大学附属図書館において改組を実施し、関連業務の運用体制を整備した。集中化と同時に学内の各図書館等のサービス部門や全学のシステム系部署と連携することにより、電子リソースの利用支援体制を強化することができた。人の面では、図書館員の専門性育成に職員研修が有効であると考え、九州大学附属図書館で実施した研修会で得られた知見を基に、伝統的紙媒体資料に対する専門性育成に効果的な研修方法を具体的に提示した。その研修方法は、図書館員の知的関心の拡大、古刊本を取り扱う際の調査手法の習得、図書館が所蔵する貴重資料の再評価、研修内容の蓄積と共有に実効性があり、図書館のサービス機能を強化するものであった。

本論文では、以上 3 つの側面から、ハイブリッド環境下の大学図書館が効果的に学術情報サービスを構築し展開する方法を考察し、実際に九州大学附属図書館で実現した結果から、それらの有効性を示した。